

N響 Member

with 徳永二男 Tsugio Tokunaga

室内楽コンサート

～ヴィヴァルディ“四季”～



徳永二男
Photo: K.Miura



2009 11/29 **sun** 開場 13:30
開演 14:00



能代市文化会館 大ホール

チケット

大人 3,500円 高校生以下 1,000円 **全席指定**
(当日各500円増)

チケット販売

2009年 9月12日(土)～

□主 催／能代市文化会館・AKT秋田テレビ・NPO法人能代市芸術文化協会

□助 成／(財)地域創造

□お問合せ／能代市文化会館 TEL.0185-54-8141

*未就学児童の入場はできません。 *託児あります。(要予約)

プレイガイド

ジャスコ能代店 TEL.0185-52-6339

いとく能代SC TEL.0185-89-2480

アサヒ楽器 TEL.0185-52-2275

ササキ楽器 TEL.0185-52-9755

サトウレコード TEL.0185-73-4200

いとくニッ井SC TEL.0185-73-3113

北秋田市文化会館 TEL.0186-62-3311

いとく鷹巣SC TEL.0186-69-7799

いとく大館SC TEL.0186-49-1717

大館市民文化会館 TEL.0186-49-7066

秋田駅ビル・トピコ TEL.018-889-3580

能代市文化会館 TEL.0185-74-5343

(チケット専用)



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。

N響Member with 徳永二男 室内楽コンサート

Profile

NHK交響楽団メンバーによる室内楽

N響の精鋭メンバーによるきらめく弦の響き

1987年、NHK交響楽団の室内楽研究グループとして発足。チェロの岩井雅音氏を中心に、N響主力メンバーによって編成された。

ソリストには、長年NHK交響楽団のコンサートマスターを務め、N響の“顔”として抜群の知名度と人気を誇った徳永二男が登場します。

クラシックビギナーから本格的な愛好家まで満足できる、ポピュラーで多彩なレパートリーを持ち、ヴィヴァルディの“四季”を中心に、親しみやすい名曲の数々をお贈りします。

その緻密なアンサンブル、華やかな音色は「これぞ室内楽の最高峰」と日本各地で高い評価を得て、演奏活動を行っています。



徳永二男 (ソロ・ヴァイオリン)

Tsugio Tokunaga

ヴァイオリニストの父茂および鷺見三郎氏に師事。桐朋学園にて、齋藤秀雄氏に師事。1966年、当時日本楽壇史上最年少のコンサートマスターとして東京交響楽団に入団。1968年、文化庁在外派遣研修生としてベルリンへ留学、ミシェル・シュヴァルベ氏に師事。1976年、NHK交響楽団のコンサートマスターに就任。その後首席第一コンサートマスターを経て、ソロ・コンサートマ

Photo: K.Miura

スターの重責を担い、長年NHK交響楽団の“顔”として抜群の知名度と人気を誇る。

NHK交響楽団在籍時代よりヨーロッパ、アメリカ各地から招かれ、リサイタル及び協奏曲のソリストとして活躍が目立った。とりわけ、ケルンでの現代音楽祭参加、ベルリンの日独センター柿落とし公演でのヴォルフガング・サヴァリッシュ氏との室内楽コンサート、ニューヨークのカーネギーホールでの室内楽コンサートツアーは、それぞれ絶賛を博した。

1994年にNHK交響楽団を退団し、ソロ、室内楽に専念。1995年からJ.T.アートホール室内楽シリーズの音楽監督を、1996年からは宮崎国際音楽祭の総合プロデューサーを務めるなど、日本の室内楽の分野における中心的立場を確固たるものとしている。

ソリストとしても数多くのリサイタルを行い、近年は楽器の弾き比べなど、親しみやすいトークを交えた演奏会が、各方面から好評を博しているほか、2008年から「徳永二男の挑戦」と題し、10年間毎年1回ずつのリサイタル・シリーズに取り組み、大きな話題となっている。

CDは、ピアニスト・伊藤恵と共演したブラームスのヴァイオリン・ソナタのほか、音楽生活35年の集大成となるベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲集や、パガニーニのカプリースなどがフォンテックからリリースされている。

現在、人気・実力ともに日本を代表するヴァイオリニストである。国立音楽大学教授、桐朋学園大学特任教授、洗足学園大学客員教授。

演奏曲目の紹介と解説

W.A モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756～1791)

セレナード 第13番 ト長調 K.525

“アイネ・クライネ・ナハトムジーク”より第1楽章

1787年に作曲されたこの曲は、モーツァルトのセレナードの中でも特に親しまれているが、誰の為に、何の機会に書かれたかは全く知られておらず、わかっているのは、モーツァルトが作品目録に、作曲した年月日を「1787年8月19日」と記入している事だけである。

この曲の魅力は“仲間同士の音楽”として書かれている事で、晚餐の後に友人達がくつろぎながら楽しんだといわれている。

ハイドン Franz Joseph Haydn (1732～1809)

弦楽四重奏曲 第17番

ヘ長調「セレナード」op.3の5より第2楽章

この「セレナード」はJ.ハイドン初期の作品で、他の室内楽曲と比較すると小曲ではあるが、全4楽章のうち第2楽章「アンダンテ＝カンタービレ」の旋律が特に美しく、いわゆる「ハイドンのセレナード」として有名である。

この楽章は当時ウィーンの街を流す辻音楽師の奏でる旋律からとったものとされており、優美な魅力あふれるセレナードとなっている。

パッヘルベル Johann Pachelbel (1653年～1706年)

三声のカノンとジーク ニ長調より「カノン」

パッヘルベルは南ドイツ・オルガン派最大の名オルガニストであり、作曲家としても活躍した。

オルガン音楽の発展に貢献し、合唱曲、三重奏、合奏ソナタ、組曲などの作品を残している。現在「パッヘルベルのカノン」として親しまれる曲は、「三声のカノンとジーク ニ長調」の第1曲で、もともとは四重奏編成の室内楽曲と書かれたものと伝えられてきた一方、オルガン曲であったともいわれており、詳細は不明である。

レスピーギ Ottorino Respighi (1879～1936)

リュートのための古風な舞曲とアリア第3集

「リュートのための古風な舞曲とアリア」は、レスピーギがローマのサンタ・チェチーリア音楽院の教授をしていた時期の作品であり、当時レスピーギは音楽院の図書館で昔の作曲家の作品を調べ、その中から気に入ったものを編曲する事を楽しみとしていた。

このアリア集は15～16世紀頃の弦楽器であるリュートで演奏されていた曲を、近代的あるいはむしろ新古典主義風に管弦楽用に編曲し、4曲からなる弦楽合奏用の組曲としたもので、レスピーギは『原曲のもつ気品と香気を失うことなく原曲の時代と性格に適した和声を配し、管弦楽の衣を着せた』と語っている。

ヴィヴァルディ Antonio Vivaldi (1678～1741)

ヴァイオリン協奏曲集

「和声と創意の試み」よりOp.8の1～4“四季”

第1番「春」ホ長調

第1楽章アレグロ／第2楽章ラルゴ／第3楽章アレグロ

第2番「夏」ト短調

第1楽章アレグロ・ノン・モルト／第2楽章アダージョ／第3楽章プレスト

第3番「秋」ヘ長調

第1楽章アレグロ／第2楽章アダージョ・モルト／第3楽章アレグロ

第4番「冬」ヘ短調

第1楽章アレグロ・ノン・トロポ／第2楽章ラルゴ／第3楽章アレグロ

「和声と創意の試み」は、全12曲よりなるが、第1番から第4番までの4曲が有名な“四季”である。

標題音楽の傑作と言われ、18世紀の器楽曲の中で最も強い影響力をもつ作品となっている。「春」「夏」「秋」「冬」の4曲から構成され、作者不明のソネット(詩)がついているが、ヴィヴァルディはその内容にかなり忠実に、詩的かつ音楽的な自然描写を行っている。